

選択問題の指導について

社会福祉学部 准教授
博士（社会福祉学） 藤島薫

本日は、心理学部の大島先生がご担当された「臨床心理士・公認心理士試験対策授業」を見学させて頂きました。

基本的な流れは、先週の授業と同様に、設問を読み、正答に○をつけ、誤りの部分を正しい文言に修正したもの及び解説を読み暗記をさせておりました。その流れを繰り返し行って記憶を定着させ、最後に、授業内で解いた問題と解説の全体を、全て暗記し確認テストを実施し満点を取れるようにするというものでした。

授業の最初に中島学長から 37 分間を使って次のような講話がありました。

「確認テストで満点を取ったことに満足しないで、受かるためには、何度も何度も繰り返し確認し、完全に頭に残るようにすることで確実に受かることができる。有名な大学に入学しても公務員の試験には受からず、東京福祉大学に入ることで合格することができる。

他の大学は受験対策をしないので自分でお金を払って受講しないといけませんが、東京福祉大学はこのように対策講座をやってあげており、このようないい大学はない。高校時代に賢くなくても東京福祉大学に来て勉強すると賢くなってエリートになれる。公務員試験に合格すると公務員に確実にになれる。今、民間会社は厳しく、大きな会社でもつぶれるところがある。しかし、役所がつぶれることはないの心配はなく、公務員の内定が取り消しになることもないし、給料が未払いになることもない。定年退職しても公務員は天下りで再びいいところに就職することができる。日本は伝統的に、入れる大学で能力を判断し人生を決定すると言う考えがあるが、東京福祉大学に入ることで賢くなれる。専門学校を創立するのに 4 億 5 千万かかった。」

また、教育の専門性を高めるようと 37 歳から 42 歳までフォーダム大学で博士号を取得するために、死にもの狂いで勉強した結果、自分は賢くなり、わかりやすい英語とわかりやすい日本語の能力を身につけることができたことを繰り返し話され、試験に合格したいのであれば死にもの狂いで頑張ることが重要であると話されました。

更に、臨床心理士は患者や利用者の生き方に深く関わる仕事なので、相手の意見をよく聴き、そして相手にとってわかりやすい言葉で伝えていくことが大切だとも話され、資格を取り臨床心理士として仕事をするためのモチベーションを高めていました。

授業の最後にも中島学長から話があり、今日出た問題とこれまでに行った問題を電車の中、家に帰ってから、寝る前、明日と何度も繰り返し確認し、全員が受かるようにするように、死にもの狂いで頑張ることで賢くなり自分に変化が起こり徳をすることになるので頑張るようにと励まされました。